

甲状腺外科草子 30

華岡青洲の弟子に贈る言葉

杉野 圭三

青洲は弟子たちに多くの言葉や書を残している。その一部を記す。

活物窮理

人体・生体についての基本を熟知し、深く観察して患者や疾病の病態・特質を理論的に究めなければならない。伝聞や経験だけで医療を行うことなく、客観的観察や実験で疾病の特質、真理を極める必要がある。



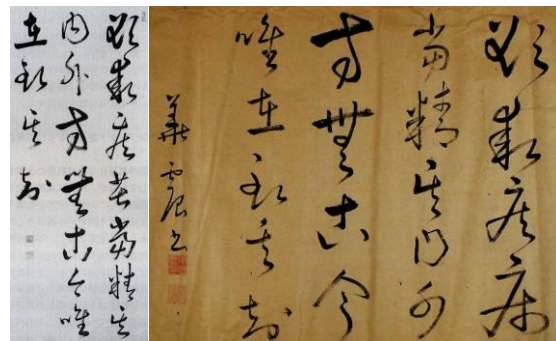
活物窮理 (個人蔵)

内外合一

医療において内科、外科を分けることなく総合的に考え診療することが重要である。青洲曰く、「外科を志す者は、まづ内科に精通せざるべからず、中略、内外を審査して始めて刀を下すべきものなり」。

広島大学医学資料館には華岡青洲 (初代) 直筆の書が所蔵されており、その経緯を盛生名誉教授が広仁会会報に記している。

内容は達筆すぎて判読困難なので下記を参照されたい。



広島大学医学資料館蔵

個人蔵

欲療疾病 当精其内外
方無古今 唯在致其知

疾病を療 (いや) さんと欲すれば
当 (まさ) に其の内外に精 (くわしく) あるべし、(医の) 方法に古今 (の別) 無く
唯、其の知に致る在るのみ

(ただ其の知識のぎりぎりまで尽くすことあるのみ)

外科医にとって、内科も含めた総合的知識の重要性を強調した教えである。

起死回生の術

青洲が弟子に贈った最も有名な漢詩がある。

竹屋蕭然鳥雀喧

風光自適臥寒村

唯思起死回生術

何望輕裘肥馬門

竹屋蕭然鳥雀喧(ちくおく

しょうぜん うじゃくかまびすし)

風光自適臥寒村(風光 おのず

から寒村に臥す)

唯思起死回生術(ただ思う

起死回生の術)

何望輕裘肥馬門(何ぞ

けいきゅう肥馬の門を望まん)



世俗の名誉、地位、富を求めず、ただひたすら起死回生の外科治療完成を追求し続けた青洲らしいことばである。

参考文献

上山英明. 華岡青洲先生 その業績とひととなり. 1999.

和歌山市立博物館. 華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂.

2012

盛生倫夫, 華岡青洲氏よりの手紙. 広仁会会報, 61, 12

-13, 2001

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年5月18日